

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	みらいキッズ月島（児童発達支援）			
○保護者評価実施期間	2024年4月1日		～	2025年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	50	(回答者数)	31
○従業者評価実施期間	2024年4月1日		～	2025年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数)	10
○事業者向け自己評価表作成日	2024年3月14日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童が安心して楽しく過ごせる場であること。	指導員から進んで関わり児童それぞれの興味を持てること、苦手なことを知っていきながら信頼関係を築いています。また活動中はメリハリをつけるようにしており、課題に取り組むときはしっかり取り組み、自由時間は児童がやりたいことができるようにしています。	今後も児童それぞれの特性や性格を観察し、気持ちを察しながら関わりを深めていきます。その中でまだ言葉で表現が難しい児童の気持ちに寄り添っていただきたいと思います。
2	活動内容が固定化しないよう工夫されていること。	児童に行ってほしい部分は変えずに、見た目や提示の方法で工夫して児童が飽きないように留意しています。課題内容も、児童が遊び感覚で行えるように提示しており、楽しみながら様々な練習できるようにしています。また日々の活動だけではなく、季節のイベントも開催して児童の楽しみを作っています。	活動の中で児童が好む物をしっかりと把握し、それを取り入れた課題の提示を行っていきます。時には児童が挑戦する機会も作り、挑戦して失敗した悔しさや成功した達成感と喜びも経験できる機会を作ります。そしてその中で児童の気持ちに共感し、悔しい気持ちを前向きに捉えたり、嬉しいことはより強く感じてまた次の挑戦へと繋げていきます。
3	保護者との間で情報共有がしっかりと行われていること。	みらいキッズへの連絡方法は電話の他にラインを取り入れており、保護者の忙しい合間に連絡が取りやすくなっています。保護者からの要望も活動の中でできるだけ取り入れたり、指導員からも児童の強みや練習が必要なお話を共有し、一緒に成長を見守っています。	今後も面談時や送迎のお引渡しの際の会話から、保護者とも信頼関係を築いていきます。また保護者が気軽に相談できる場になるよう、児童発達支援管理責任者を中心に指導員も保護者と関わったり、職員間の情報共有を図ってまいります。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流の機会を作ることが難しいこと。	サービス提供時間が2時間と限られているため、地域の行事への参加が難しい状況です。また様々な人が多く集まる場では児童の安全性の確保が難しく、様々な危険性を考え参加できていません。	地域の大きな行事にはまだ参加が難しいと思いますが、小規模なイベントや園や近隣の学校で行われるオープンスクールに参加するなど、参加方法を模索していきます。また地域の行事に参加する際は、児童の安全性
2	野外活動をあまり行えていないこと。	地域交流の機会と同様に2時間の中で外出することが難しい状況です。特に午前のクラス(10:00～12:00)は、園の給食の時間までの送迎を行っているため、送迎の兼ね合いにより野外へ出かけることが難しいです。	現状利用人数が少ない時に近隣の公園へ出かけています。まだ定期的に行うことは難しいため、今後の課題としながら今はイベントのような位置づけとして提示して、児童の楽しみの一つとして行っています。
3	バリアフリー化が足りておらず、急な階段での上り下りが必要なこと。	事業所には階段のみ設置されている環境です。手すりはありますが、急なため注意が必要になっています。	階段から落ちないよう指導員が必ず付き添っています。また足元が不安定な児童は手すりを持つことを促すだけ